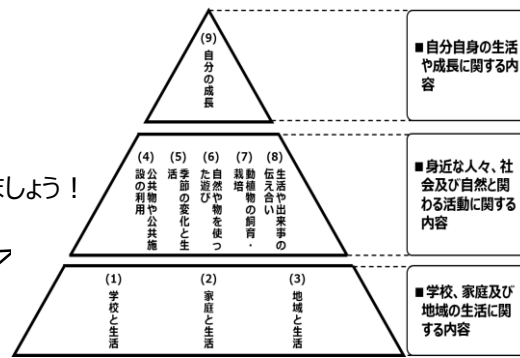


早わかり！ 単元計画の作成手順

～小学校生活科 第2学年「うごくおもちゃけんきゅうじょ」を例にして～

1. 指導内容（指導事項）を確認する → 学習指導要領で確認しましょう！

生活科の内容は（１）～（９）があり、それぞれの内容は「具体的な活動や体験」+「資質・能力の三つの柱」で記載されています。内容の構成を理解することが大切です。



例：内容（６）自然や物を使った遊び

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、 → 具体的な活動や体験
遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、 → 思考力、判断力、表現力等の基礎
その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、 → 知識及び技能の基礎
みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。 → 学びに向かう力、人間性等

2. 単元の目標を作成する → 具体的な活動や体験と、資質・能力の三つの柱を構造的に示します！



（１） 単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。例：内容（６）

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

身近にある材料を利用して動くおもちゃをつくる活動を中心的な活動として、単元の目標を作成します。

（２） （１）と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや見えにくい力の不思議さに気付くとともに、みんなで協力して遊びを楽しもうとするようにする。

3. 単元の評価規準を作成する



複数の内容で単元を構成する場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることの内容に気を付けなければなりません。

- （１） 単元の目標を確認する。
- （２） 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。
- （３） 学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力の記載事項を確認するとともに、「具体的な内容のまとめごとの評価規準」を参考に、小単元の評価規準を作成する。

学習指導要領解説生活編には、それぞれの内容について、「Aという資質・能力は、Bということである」というように、具体的な記載事項が示されています。



【単元の評価規準】

評価規準	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、その面白さや見えにくい力の不思議さに気付いている。	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、ついている。	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、みんなで協力して遊びを楽しもうとしている。
小単元における評価規準	1	① 身近にある材料を利用して、動くおもちゃを作って遊ぶことに 気付いている 。	① 楽しみたい遊びを思い描きながら 、おもちゃ作りや遊びに使う物を選んでいる。	① 自分の関心のあるおもちゃを見つけて、 楽しく遊ぼう としている。 ② 動くおもちゃ作りに関心を持ち、 粘り強くおもちゃを作ろう としている。
	2	② 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに 気付いている。	② 友だちと 比べたり、試したりしながら動くおもちゃを工夫して 作っている。 ③ 友だちと 相談したり、遊びを工夫したりしながらおもちゃを 作っている。	③ “よく”動くおもちゃへの 思いや願いをもち、友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、おもちゃを作ろう としている。
	3	③ みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓を している。	④ おもちゃ広場の 約束やルールを工夫しながら遊んで いる。	④ 友だちと 関わりながら、みんなで楽しく遊ぼう としている。

4. 指導と評価の計画を作成する

- 全18時間の授業の中で、11の評価規準をどのように分配していくのか計画します。
- 単元の評価計画を、単元の指導計画と合わせて作成していきます。
- 指導と評価の計画は、いつ、どの小単元で、どの資質・能力を、どのような評価規準をもとに見取るか、について表しています。



【指導と評価の計画（全18時間）】

小単元名	学習活動	評価規準	評価方法
1 動くおもちゃを作って遊んでみよう。 (6時間)	○教師が用意した動くおもちゃで遊んでみる。遊んだおもちゃの中から、自分が作ってみたいおもちゃを選ぶ。遊んだ感想や、作りたいおもちゃについてかく。 ○作りたいおもちゃの設計図を作る。 ○設計図をもとにおもちゃを作る。作ったおもちゃで遊んでみる。最後に「もっと〇〇したい」という願いをもてるようにする。	態① 思① 態② 知①	行動観察 発言分析 研究ファイル（設計図、研究日記）
2 もっと動くように工夫しよう。 (6時間)	○自分が作った動くおもちゃで遊んだり、友だちと一緒に試したりしながら、「よく動くようにするために、自分の動くおもちゃを改良していく活動をしていく。	態③	行動観察・発言分析
	○自分のおもちゃの工夫や困りを出し合い、よく動くおもちゃと比べたり、アドバイスし合ったりして、自分なりの改良の見通しをもつ。	思②	発言分析・研究ファイル
	○おもちゃを改良しルールを作って遊んだり、さらに「よく動くように改良したりする。 ○自分が作ったおもちゃの不思議や発見、面白さや楽しさなどを出し合い友だちと交流し合う。	思③ 知②	行動観察・研究ファイル 発言分析・研究ファイル
3 作ったおもちゃを紹介したり、一緒に遊んだりしよう。 (6時間)	○おもちゃを使った遊びやルールを工夫して、友だちと楽しく遊ぶ活動を行う。 ○グループごとに、ルールを決め必要なものを考え、おもちゃ広場の準備をする。 ○おもちゃ広場で遊ぶ。 ○「動くおもちゃ研究所」の学習を振り返って、思ったことや考えたことを交流し合う。	態④ 思④ 知③	行動観察 発言分析・行動観察 研究ファイル

5. 単元の指導計画（指導と評価の計画）をもとに、本時の評価規準を具体的に定める

第8時の学習活動においては、思考・判断・表現の評価規準を以下のように設定したうえで、その評価規準における**具体的な児童の姿**を想定し、評価を行っています。



第8時の評価規準 「友だちと比べたり、試したりしながら動くおもちゃを工夫して作っている。」

具体的に**する**

発言分析や研究ファイルによって評価

具体的な児童の姿（例）

- ・材料の大きさや重さなどの違いでおもちゃの動きがかわるかどうかを試している。
- ・風の力で動かすおもちゃが速く動くように、うちわのおおぎかたや風の当たる場所や広さを変えている。など

A児の姿

「おもちゃがはやくごうごうになるためには、風が当たるところを広くして、風がよくあたるようにうちわをあおぐといいよ。車がおもいと早くごうごかないから、かるいざいりょうをつかうといいよ。」

「十分満足できる状況」と評価

B児の姿

「Cさんのおもちゃは、車のタイヤの部分に同じ大きさのキャップをつかっているよ。ぼくの車のタイヤは大きさがちがっているよ。」

同じ大きさのペットボトルキャップを使ってタイヤにする姿

「おおむね満足できる状況」と評価